

談話室

立命館大学 SR センター 10 周年記念シンポジウムの報告

山本 安一*

SR Center 10th Anniversary Symposium

Yasukazu YAMAMOTO*

立命館大学の超伝導放射光施設：SR センターは、1996 年 4 月にびわこ・くさつキャンパス（滋賀県草津市）において開設され、同時に光源の利用運転が開始された。以来、学内外の研究者に広く利用されており、今年で 10 年を経過したところである。去る 2006 年 6 月 17 日に開設 10 周年を記念して、「立命館大学 SR センター 10 周年記念シンポジウム」を開催した。毎年初夏の時期には「SR センター成果報告会」を開催しており、前年度の成果を報告してきているが、今回はその報告会の 10 回目でもある。以下に概要を報告する。

今回の記念シンポジウムへは、文部科学省や滋賀県、大学関係者、企業関係者などの来賓を含め、約 150 名のご参加をいただいた。

記念シンポジウムは、「小型放射光施設の果たす役割 ～立命館大学 SR センターのこれまでの 10 年と

これから～」をテーマとして開催した。最初に立命館大学副総長の川村貞夫よりのあいさつの後、ご来賓を代表して滋賀県商工観光労働部部長の河本光明様よりご祝辞を賜った。また、協賛いただいた文部科学省ナノテクノロジー総合支援プロジェクトセンター副センター長の米倉実様、および日本放射光学会会長の下村理様よりご祝辞をいただいた。

続いて 10 年間の感謝を込めて、住友重機械工業株式会社社殿へ感謝状を贈呈した。立命館大学の放射光源は、住友重機械工業田無製造所内に建設された AURORA のプロト機を移設したものであるが、この 10 年間大きなトラブルも無く、順調に利用運転を続けることができた。これは住友重機械工業の皆様の多大なるご支援・ご協力によるもので、皆様に厚く感謝したい。

講演の部では、最初に元 SR センター長で現在 SR



図 1 SR センター実験ホール

* 立命館大学 SR センター
(E-mail: y-yama@st.ritsumei.ac.jp)



図2 記念シンポジウム講演者とスタッフ

センター顧問の岩崎博先生より「立命館大学 SR センター 10 年の歩み」と題して講演いただいた。SR センター設立当初から近年までの状況、放射光を通じた大学生・大学院生教育や研究の成果、産学連携の実績についてご講演いただいた。次に立命館大学の田中道七総長顧問より、「立命館大学産学連携 10 周年の歩み」と題して、SR センター設立の経緯にかかる舞台裏や産学連携の歩みについて講演が行われた。昼食休憩後、太田俊明センター長より「SR センター今後のビジョン」と題して、光源・ビームラインの高度化や新たな利用展開についてのビジョンを示す講演がおこなわれた。

特別講演は、九州シンクロトロン光研究センター所長の上坪宏道先生にご講演いただいた。「わが国の放射光科学の歩み」と題して、放射光科学の基礎の形成から、光源・実験手法の発展について、また将来に向けてそれぞれの展開や利用分野の拡大について大変興味深いお話をいただいた。

その後続いて、立命館大学ナノテクノロジー総合支援プロジェクト推進室の岡本篤彦室長をモデレータとして、パネルディスカッションを行った。「SR セン

ター：今後への期待」と題して、ユーザーから見た利用支援のあり方や地域との連携のあり方等について、会場からも意見が飛び交い、活発にご議論いただいた。パネリストには、株式会社東レリサーチセンター代表取締役副社長の石田英之様、関西医科大学医学部教授の木原裕様、財団法人高輝度光科学研究センターコーディネータの古宮聡様、ご祝辞を頂戴した河本光明様、立命館大学の高倉秀行理工学部長、太田俊明センター長に参加いただいた。

この後、講演会場から SR センターの実験ホールへ場所を変えて、ポスターセッションが行われた。最近の研究成果について、ビームライン・実験装置を目の前にして、活発な議論が行われた。

立命館大学の SR センターも開所から 10 年が経過し、今回のような記念シンポジウムを開催することができました。これもご支援いただきました多くの方々のお力によるものであり、皆様に厚く御礼を申し上げます。今後も、光源・ビームラインの高度化を目指し、またユーザーにとって利用しやすい放射光施設となるよう全力を尽くす所存ですので、皆様のご支援・ご指導をお願い致します。